| 授業科目名 | ヒロシマのこころ | | | | | 科目コード | E1002 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 担当者 | 古澤 敏昭 / 佛圓 弘修 ・ 二宮 孝司 | | | | | 履修区分 | 必修 |
| 開講年次 | 1年 | 開講期 | 後期 | 授業回数 | 15回 | 単位数 | 2 |

**授業の概要・到達目標**

（概 要）

平和とは何か、現在の国際社会において平和の大切さ、難しさを学び、一人ひとりが何をしなければならないかを考え、平和な心と豊かな人間性の大切さを学修する。真の恒久平和は、武力ではなく平和的手段によって、日常生活での地道な実践の積み重ねから実現できるもの。「平和をつくる」ことの意義と具体的方法論について核被爆の実相と「ヒロシマのこころ」に照らしながら考察する。

（到 達 目 標）

① 「原爆被災の実相」（物理・医学・人道的）の正確な理解

② 「ヒロシマのこころ」（被爆者の心情・核廃絶への決意）の継承と実践

③ 「平和を創る」という意識の向上と日常生活での実践、並びに「建学の精神」の体現

**履修における注意事項（受講ルールなど）**

授業の妨げになるので私語は禁止。配布のレジメと資料を中心に講義を進める。

**授業スケジュール** ※履修している学生に対して事前に説明があった上で、変更される場合があります。

| 回数 | 講義内容 | 担当者 |
|---|---|---|
| 1 | 「建学の精神」の体現① | 古澤 敏昭 |
| 2 | 「建学の精神」の体現② | 古澤 敏昭 |
| 3 | オリエンテーション （授業の概要や授業計画、評価方法等の説明） | 佛圓 弘修・二宮 孝司 |
| 4 | 広島県・市における平和教育（小学校実践・「へいわノート」の活用） | 佛圓 弘修・二宮 孝司 |
| 5 | ヒロシマの文学とその周辺 | 佛圓 弘修・二宮 孝司 |
| 6 | 見学の観点・解説と計画立案 | 佛圓 弘修・二宮 孝司 |
| 7 | フィールドワーク①（平和記念資料館見学と碑めぐり・被爆樹めぐり） | 佛圓 弘修・二宮 孝司 |
| 8 | フィールドワーク②（平和記念資料館見学と碑めぐり・被爆樹めぐり） | 佛圓 弘修・二宮 孝司 |
| 9 | フィールドワーク③（平和記念資料館見学と碑めぐり・被爆樹めぐり） | 佛圓 弘修・二宮 孝司 |
| 10 | フィールドワーク④（平和記念資料館見学と碑めぐり・被爆樹めぐり） | 佛圓 弘修・二宮 孝司 |
| 11 | 見学のまとめとプレゼンテーション | 佛圓 弘修・二宮 孝司 |
| 12 | 「原爆被災の実相」「核兵器を巡る今日的状況」の理解 | 佛圓 弘修・二宮 孝司 |
| 13 | 「平和を創る」行動化（「ヒロシマ」から「ひろしま」へ） | 佛圓 弘修・二宮 孝司 |
| 14 | 「平和を創る」行動化（指導案をつくってみよう） | 佛圓 弘修・二宮 孝司 |
| 15 | これからの平和教育実践に求められる資質・能力 | 佛圓 弘修・二宮 孝司 |

**成績評価方法**

授業内で記入するコメントシート 60%、討論や観察の内容と主体的なかかわり 40%

ただし、受験資格を満たしていない場合は評価の対象としない。

**教科書**

| 書名 | 著者 | 出版社 | ISBNコード |
|---|---|---|---|
| | | | |

**参考書**

| 書名 | 著者 | 出版社 | ISBNコード |
|---|---|---|---|
| 広島市平和教育プログラム/へいわノート | 広島市教育委員会 | 株式会社中本本店 | 広 X3-2012 |
| 広島県教育資料 | 広島県教育委員会 | | |

**教員からのメッセージ（予習・復習の方法に関するアドバイスなど）**

授業での課題等はもとより、平和問題について日常生活でも疑問を感じたら、そのままにはせず、どのように考えるべきかを探求していきましょう。そのうえで、他者と議論をすることで自分の考えをさらに深めましょう。

**教員との連絡方法** ※質問・相談など時間を要する場合は、教員に事前に連絡・確認を必ず取ってください。

直接研究室を訪ねるか、担当教員もしくは事務を通してメール等で連絡してください。